

年 表

西暦	出来事
1902年	屋良朝苗生まれる／山里永吉生まれる。
1907年	瀬長亀次郎生まれる。
1921年	西銘順治生まれる。
1926年	屋良、広島高等師範学校入学。
1929年	瀬長、社会主義運動を理由に第七高等学校造士館を放校処分。
1930年	屋良、広島師範学校卒業、沖縄県立第一高等女学校教諭。
1931年	新川明生まれる。 瀬長、神奈川県京浜地区で労働運動に携わる。日本共産党に入党。
1932年	瀬長、労働争議指導中、治安維持法違反で検挙。懲役3年。
1938年	屋良、台湾台南第二中学校へ転任。
1943年	屋良、台北師範学校教授／西銘、東京帝国大学合格。海軍予備学生として館山海軍砲術学校入学。
1945年	4月1日、米軍沖縄島上陸。ニミッツ布告により軍政府を設立。6月23日（22日説も）、日本軍の組織的抵抗終わる。8月20日、沖縄諮詢会発足（委員長・志喜屋孝信）。
1946年	沖縄民政府発足（知事・志喜屋孝信）／瀬長、「うるま新報」社長。
1947年	日本国憲法施行／沖縄人民党結成。瀬長、中央委員／屋良、知念高校校長。 天皇の沖縄メッセージ、GHQに伝わる。
1948年	西銘、東京大学卒業。外務省入省。
1949年	本格的な基地建設はじまる／瀬長、人民党書記長／西銘、「ヘラルド社」社長。 中華人民共和国成立／ソ連、原爆保有公表。
1950年	4群島で群島政府知事・群島議会議員選挙実施（沖縄初の知事公選）。 沖縄社会大衆党、結党。西銘、結党準備委員／共和党結成。 瀬長、沖縄群島知事選で落選。 米軍政府、琉球列島米国民政府（USCAR）に改組／琉球大学開学。 屋良、文教部長／新川、琉球大学入学／米で「赤狩り」始まる。
1951年	沖縄群島議会日本復帰要請決議／琉球臨時中央政府発足。 沖縄社会大衆党、沖縄人民党が党大会で復帰運動推進を決議。 日本復帰促進期成会結成、復帰署名運動で沖縄島有権者の72.1%集める。 サンフランシスコ講和条約調印、沖縄・奄美・小笠原の分離確定。 日米安全保障条約調印。

1952年	第3回全島校長会議で祖国復帰を決議／琉球政府発足。 沖縄教職員会発足。屋良会長に。 琉球政府立法院「琉球の即時母国復帰請願」を決議。 戦災校舎復興促進期成会結成。
1953年	第1回祖国復帰県民総決起大会開催。 沖縄戦災校舎復興募金運動のため、屋良全国行脚へ。 米民政府、「土地収用令」公布。土地の強制接收始まる。 『琉大文学』創刊／奄美群島、日本へ返還される。
1954年	アイゼンハワー米大統領、沖縄の無期限保有を宣言／米民政府、地代一括払い方針発表／立法院、「土地四原則」（一括支払反対・適正補償・損害賠償・新規接收反対）を決議／瀬長、西銘、立法議員選挙に当選／瀬長、逮捕され懲役2年判決（人民党事件）。
1955年	伊江島・伊佐浜の土地強制収用（武装米兵出動）。 「由美子ちゃん事件」。6歳女兒が米兵に暴行殺害される。 「愛の教具」第一陣、沖縄に到着。 新川、琉球大学を中退し沖縄タイムス入社。
1956年	プライス勧告、土地四原則をほぼ否定。「島ぐるみ闘争」起こる。 米軍通告により、琉球大学が「反米的学生」を処分（第二次琉大事件）。 那覇市長に人民党の瀬長亀次郎当選。
1957年	瀬長、那覇市長を追放される。 アイゼンハワー大統領、新行政命令発表。高等弁務官制度を導入。 日米首脳会談、在日米軍地上部隊の撤退で合意（後、海兵隊が沖縄に移駐）。 新川、鹿児島支局へ配転。
1958年	那覇市長選、瀬長体制維持を掲げた兼次佐一当選。
1959年	石川市宮森小学校に米軍ジェット機墜落（死者17、負傷者121）。 新川、関西支社編集部へ転勤／瀬長、人民党委員長／西銘、沖縄自由民主党結党に参加／伊達判決、外国軍隊駐留を違憲と判断。
1960年	沖縄県祖国復帰協議会結成（～1977）。 日米新安保条約調印／安保闘争。
1961年	沖縄人権協会・全軍労連・全沖労連結成。
1962年	日本、沖縄の祝祭日に公共建物への日本国旗掲揚許可。 西銘、那覇市長当選。
1963年	キャラウェイ高等弁務官、「沖縄の自治は神話に過ぎない」と演説。 新川、本社編集部文芸部副部長。
1964年	立法院、沖縄住民代表の国政参加要請を全会一致で可決。 新川、八重山支局へ配転。

1965年	佐藤・ジョンソン大統領共同声明。在沖米軍基地の重要性を確認。 佐藤栄作、首相として戦後初の来沖。「沖縄の祖国復帰が実現しないかぎり、日本の戦後は終わらない」と演説。 屋良ら有志5名、主席公選の実現を訴える声明発表。 米、北爆開始。ベトナム内戦に全面介入。
1966年	沖縄問題懇談会（総理府総務長官諮問機関、座長・大浜信泉）発足。
1967年	教公二法阻止闘争。 沖縄問題等懇談会（総理大臣諮問機関、座長・大浜信泉）発足。 日本で革新自治体発足相次ぐ。
1968年	西銘、沖縄自民党総裁、那覇市長辞任／初の主席公選、屋良当選、西銘落選／ 瀬長、立法院議員最高位当選／嘉手納基地でB52爆撃機が墜落、いのちを守る 県民共闘会議結成。
1969年	2.4ゼネスト、屋良主席の要請により中止。 佐藤・ニクソン会談、沖縄の72年返還を決定、核密約結ばれる 「沖縄人の沖縄を作る会」結成／新川、本社編集部編集委員
1970年	戦後初の国会議員選挙実施（国政参加選挙）。西銘、自民党公認で当選（以後計 四選）。瀬長、人民党公認、日本共産党推薦で当選（以後七選）／コザ反米騒動。
1971年	沖縄返還協定調印、沖縄返還協定特別委員会での強行採決を経て批准。 米、金一ドル交換停止（ドルショック）。
1972年	施政権返還、沖縄県設置。沖縄処分抗議県民総決起大会。 戦後初の県知事選、屋良当選／ドル・円通貨交換。
1973年	CTS（石油備蓄基地）建設に反対する「金武湾を守る会」結成。 西銘、沖縄開発庁政務次官。
1974年	県、条例で6月23日を「慰霊の日」に制定。 佐藤栄作、ノーベル平和賞受賞。
1975年	沖縄国際海洋博覧会開催。 ひめゆりの塔参拝中の皇太子夫妻、火炎瓶を投げられる。 新川、『新沖縄文学』編集長。 南ベトナム政府、無条件降伏（ベトナム戦争終結。1976年 南北統一）。
1976年	県知事選、平良幸市（革新）当選。屋良、県知事退任。 瀬長、日本共産党公認として衆議院議員に当選。
1978年	交通方法変更（右側通行から左側通行へ）。 平良知事の病気退任で知事選。西銘順治当選（以後三選）。
1980年	新川、『沖縄大百科事典』編集長。
1982年	高校日本史の教科書検定、沖縄戦での日本軍による住民虐殺記述削除が問題に。
1984年	新川、沖縄タイムス社東京支社長。

1986年	「日の丸・君が代」の教育現場への強制に対し、県民総決起大会。
1987年	海邦国体開催。読谷村平和の森球場で「日の丸」焼却事件。
1989年	山里永吉死去（86歳）。
1990年	県知事選、大田昌秀（革新）当選（1994 再選）。
1992年	新川、沖縄タイムス社代表取締役社長。
1994年	新川、沖縄タイムス社取締役会長。
1995年	米兵による少女暴行事件。大田知事、軍用地強制使用に伴う「代理署名」を拒否。抗議の県民総決起大会を開催。／新川、沖縄タイムス社取締役退任。
1996年	日米首脳会談、普天間飛行場の全面返還、代替基地建設で合意。基地問題で全国初の県民投票実施／知事、広告縦覧代行を表明。
1997年	名護市住民投票で海上基地反対が多数。市長は受入を表明して辞任。屋良朝苗死去（94歳）。
1998年	名護市長選で海上基地容認派が当選。県知事選、稲嶺恵一（保守）当選（2002 再選）。
1999年	知事・名護市長、名護市辺野古への普天間基地移設受入を正式表明。
2000年	主要国首脳会議、名護市で開催（九州・沖縄サミット）。
2001年	米国同時多発テロの影響で観光客激減。西銘順治死去（80歳）／瀬長亀次郎死去（94歳）。
2004年	沖縄国際大学に米軍ヘリ墜落。
2006年	県知事選、仲井眞弘多（保守）当選。
2007年	高校歴史教科書検定、沖縄戦における「集団自決」の日本軍強制記述を削除・修正。教科書検定意見撤回を求める県民大会（復帰後最大規模の抗議集会）。
2008年	県議会議員選挙で与野党逆転、普天間基地県内移設反対派が多数に。
2009年	民主党鳩山内閣、普天間基地移設問題で対応先送り。

参考文献

勝方＝稲福恵子・前嶋西一馬編『沖縄学入門』（昭和堂、2010年）。

瀬長亀次郎『不屈 瀬長亀次郎日記 第2部那覇市長』（琉球新報社、2009年）。

西原町立図書館編『新川明文庫目録』（西原町立図書館、2006年）。

西銘順治『西銘順治日記 戦後政治を生きて』（琉球新報社、1998年）。

屋良朝苗『屋良朝苗回顧録』（朝日新聞社、1977年）。